

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイパーチェ		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づいた適切な支援	保護者のニーズをもとに、発達段階に合わせた支援内容を提供している。外遊びや、リトミック、模倣遊び、ふれあい遊び等を多く取り入れ、人と関わる事の楽しさを感じてもらえるよう意識した活動を行っている。身辺自立を促し、靴を履く、荷物を所定の位置に置く、着座して人の話を聞くなど、就学前に身に着けたい事を抑えて支援している。	シフォンスカーフや、ヨガボール、リボン等の道具を用いて、リトミックダンスで体を大きく動かす活動を行っている。体幹を鍛えると共に、様々な体の動きを身につける活動を実践。忍者修行と題して、子ども達が自発的に取り組めるよう、魅力的なプログラムを図っている。身辺自立は、自分でできることは自分でやるよう時間を取って行っている。
2	多岐に渡る活動プログラム	発達段階で住み分けして小集団で行う活動時間を実践。多機能ならではの年齢差を活かした活動プログラムを行い、お兄さんとのふれあいの時間やゲームの時間を作り、異年齢交流の取り組みを行っている。様々な場所へ出かけ、好奇心を引き出し、かつ目的地まで安全に歩き、点呼で集まる等、集団行動が出来るよう支援している。	児童館やインクルーシブ広場を利用し、様々な人達との関わりを持つようにしている。音で遊ぶイベントや、影絵遊びのイベントを行い、視覚や聴覚を刺激して健やかな成長を促す取り組みを実践している。日々の活動に加えて、帰りの会では毎日「季節の歌」を歌い、発語の促しを図っている。
3	地域との交流の機会を提供	地域の児童館や図書館を日頃から利用し交流を行っている。図書館の方と協力して「映画まつり」を年に6回位実施。地域の商店街の方に協力を得て「ハロウィンパレード」「年始の挨拶巡り」を実施。※「移動駄菓子屋」さんを招き、年間を通じて買い物体験を実施。回数を重ねる事で、買い物する楽しさやお金への概念を培っている。	五感を刺激する玩具が覆う揃っている「インクルーシブ広場」を多く利用している。雨の日以外は公園に行き、事業所を出て商店の人に笑顔で「挨拶」を心がける事を基本としている。大森消防署や警察の方を招き実演付きの講習会を開き、地域で安全に守られて育てていることを認知できる機会を提供している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの狭さ	事業所の作り上、活動スペースは横長のワンフロアに限られている。おもちゃ箱が手狭、倉庫がないので置き場を工夫している。	倉庫スペースに限られた空間なので、上に重ねておいたり、フックを使っている状況。活動に使う、ヨガボールの置き場を工夫しているが全体的に、スペースが狭い。
2	非常災害の定期的に避難救出訓練が行われているか	避難訓練は定期的に、実施してる。また、防災館に年に数回行き、子ども達も消化器活動など実践しているが、周知が行き渡っていない様子である。	防災訓練を行う際には、LINEを活用し広く周知するよう務める(現状は、申し送り時に伝えたり、サービス記録で報告、事業所通信：紙媒体で伝えている)
3			

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイパーチェ		公表日		2025年3月30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	レベルや特徴によってグループ分けしている。	成長段階に分けた小集団での活動や、異年齢交流を取り入れ集団活動を実施。友達と遊ぶ楽しさを感じる様、取り組んでいます
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0		ワンフロアの事業所。広いとはとても言えない状況だが、物を置かず、収納を上手に行いスペースを確保しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0		毎日、掃除を行い、ごろんと横になれる空間を心がけています。物を置かず捨てるよう美化を意識しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1		使ったら元に戻すをスタッフ各自が意識することが、重要だと考えています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	サービス記録、ヒヤリハット、共有ノート、朝会等	毎日の朝会での全体共有の実施。ミスを繰り返さないための、改善点の見出しを行っています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	3	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	2		
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	ベル、児童館等へ。図書館や、催事場に行つて交流の機会を得ている。日頃、毎日行く公園での交流もある。	様々な場所で様々な人との交流があるが、気持ちの良い楽しい交流となるよう、関わるスタッフが見守り配慮しています。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		現状、機会を作っていない。ペアレントトレーニングを行っている他の事業所から教わり実践していきたいと思っています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	2		季節のイベントや音楽会を開催し、利用者の保護者やその兄弟姉妹が交流できるようにしています。その告知力がまだ、弱いので、LINEや電話でPRしていく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0			